

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2009.5.1

No.58

四月中ごろ、教会のメンバー二十人ほどで、

あるご夫婦の家を訪問しました。実はこのご夫婦は、十年ほど前から教会にいられていました。

教会に来られるようになって一年ほどしたころ、奥さんに癌が発見されました。すぐ手術した後、闘病生活に入りました。今年で八年になります。大変な抗癌治療を何度も受けられました。原発の癌が長い間わからず、転移した癌を叩くということが続けてこられたのです。医者から何度か余命を宣告されました。しかし、持ち前のバイタリティと前向きな信仰によって支えられてきました。昨年、はつきりイエスさまを救い主として受け入れられ喜びの中におられます。最近、肺に癌の転移が発見され、余命半年の宣告を受けました。医者から治療方法がない、と言われたにもかかわらず、それを全く彷彿させない明るさです。その方との交わりをするために訪問となったのです。

余命半年の方というのをみなさんはどのように予想されるでしょうか？肺に水が溜まって、数日前にも一リットル以上抜いたほどののに、とても生き生きしておられました。(隣に座った若い女性の方が、よほど顔色が悪かったりして・・・)子どもたちも是非一緒にこのことで、私たちの子ども二人を含む大勢の子どもも同行

真理はあなたがたを自由にする



ヨハネの福音書

8章32節

し、にぎやかな訪問となりました。大きな家を見せていただいたり、子どもたちが賛美したり、楽しいひと時を過ごしました。

交わりの中で、次のようなことをおっしゃっていました。「病気になるなかつたら、聖書のことを真剣に考えることもなかつたでしょう。病気になることを感謝していただきます。」口で言つのは簡単ですが、やはり病氣を持つ方からの言葉には重みがあります。

聖書に次のような記事があります。

「またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。『先生。彼が盲目に生まれついたので、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。』イエスは答えられた。『この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。わたしが世にいる間、わたしは世の光です。』」

(ヨハネの福音書九章)

奥さんは、この聖書の記事を実感しているのです。人間には、選べることと選べないこ

とがあります。生まれつきハンディを背負っている場合、それをどのようにとらえるかによってその人の生き方は大きく変わります。そのハンディのとらえ方は大きく三つあるでしょう。

何かの報い。自分が前世で行った業の報い。だれか他の人が犯した罪の報いなど。全くの偶然。理由はない。元々意図も目的も存しない。

ある目的をもって誰かによってなされた。またはそうなることを許された。

二千年前、イスラエルにおいても、本人または他の人の罪の報い」というようなとらえ方があったことがわかります。しかし、イエスは言われたのです。私たちが愛しておられる創造主なる神はそのようなことをされないと。かえって人間の不幸なことのように見えても、それを「神の栄光」に変えることができる」と宣言されたのです。このことばにどれだけ多くの人が励まされ、



人生を変えられてきたことでしょうか。病を通じて神に出会う経験をされた人も数知れないのです。この奥さんもその中の一人でした。

こんなことしました！ 行事報告

四月

- 六日 進級式
- 八日 「超越の食事」を味わおう
- 十四日 塗り絵・工作教室「貼り絵をしよう」
- 十八日 バイブルサークルBBQ・大泉緑地
- 二十五日 Jクラブ「スポーツをしよう」
- 二十七日 国立民族学博物館
- 二十八日 お作法教室（春の料理を味わおう）
- 三十日 合同公文教室

楽しかった「みんぱく」

E

何回も行ったことがある民博に、「茶の湯のものづくりと世界のわざ」という特別展があったので、ホームスクーラーの友達と行きました。茶道を習っているお兄ちゃんやお姉ちゃんは興味があったのでとつてもゆっくり見ていました。僕は一階の茶の湯の展示はあまりピンとこなかったもので、一人で先にいきました。一人で見ていると研究員のおじさんがとつてもいいいにわかりやすく説明してくれました。だからよく分かりました。また、二階では「千家十職」という展示がありました。「千家十職」とは茶室でつかわれる道具、露地や水屋で使われる道具などを作ってきた十の家のことです。

常設展では少し展示も変わっていてビデオコーナーでも新番組ができていました。ビデオコーナーで「ラクダの解体」というビデオがありました。少し怖かったけど民博以外では見られないのでしっかりと見ました。日本ではラクダの肉などは食べないけれど、ケニアではみんな食べているそうです。またラクダのこぶが一番おいしいということですが、僕には少しもおいしそうには見えませんでした。世界にはいろいろな民族がいて食べ物にも大きな違いがあるんだなと思いました。

一日では見きれない展示物やビデオライブラリーなのでまた行きたいと思います。

ついに6年目に突入しました



「超越の食事」を味わおう

大好きなみんぱくで一日過ごしました

二十四節気

N

二月四日から礼儀作法を教えてください。k先生の宿題が始まりました。二十四節気で気づいたことをまとめて書くという宿題でした。

二十四節気とは季節と暮らしの目印です。たとえば二月四日なら「立春」で、六月二十一日なら「夏至」という感じで、季節が変わるだいたいの日が決まっており、名前がついています。一年間に決まっている日は二十四回あります。たとえば、四月五日は「清明」という名前です。二十四節気の中に入っています。春に食べたものがとつても甘いことに気がつき、先生が書いてくださった二十四節気の表に書き込みました。

四月のk先生の授業で、二十四節気に関係して、先生が春の料理を長時間かけて作ってきてくださいました。十一種類ものおいしい料理でした。献立には春にとれる「ふきのとう」「やつくし」を使ったものがたくさんありました。いかにつけて食べる「ふきのとうみそ」や「ふきと油あげのしょうゆ炒め」や白ご飯と食べたら合う「ふきの葉みそ」は私の気に入った料理です。最高においしかったです。

二十四節気は春から始めると二月四日から一月二十一日まであります。まだまだ、先は長いですが、頑張つて気づいたことを書いていきたいです。この機会に創造主が造ってくださったすばらしい季節の移り変りを少しでも知っていけるようにがんばりたいです。



編集後記

毎年この時期、猫の額ほどの庭にある十本ばかりの木を剪定します。これまでは私が切り、子どもたちが片付けましたが、今年はすべて子どもたちにお任せ。上手にできました。